

佐賀県立宇宙科学館

《ゆめぎんが・2015 夏の特別企画展》

「海王展 海の支配者たちの系譜」

開催期間：平成27年7月11日（土）～平成27年9月27日（日）



【企画展の内容・目的】

- 過去から現在までの海の高次捕食者を「海王」と称してクローズアップし、その変遷から海洋生物の進化や多様性、生態系、環境変化の影響など、多角的に「海」の持つ役割や大切さを学ぶ機会としました。
- 「佐賀県」で発見された海洋生物の化石を通して、郷土の地史や自然を知ること、地域ならではの視点から、かけがえのない「海」についての関心と理解を深める機会としました。
- 特別展の関連事業として、「海」を連想する様々な体験型プログラムを開催し、海洋生物や「海洋」に関する疑問やふしぎに対して、参加者とスタッフの会話を交えながら好奇心を増大させる機会を創出しました。

1. 企画展示の内容

■開催期間：平成27年7月11日（土）～9月27日（日）

■開催場所：佐賀県立宇宙科学館

（エントランスルーム・企画展示室・ガイダンス室・科学実験室）

■入場者数：132,668人



佐賀県立宇宙科学館 外観



企画展会場 入口
「アノマロカリス」の巨大ロボット



過去から現在までの海の高次捕食者「海王」にスポットをあてました



- 会期にあたる夏休みの主な来場者である子どもやファミリー層に対して、解説文章を多用しない展示とすることで、視覚的な効果から想像力と海洋生物に対する好奇心を増大させる展示構成としました。
- 来場者にとって、より身近に感じる海洋生物である現代の「海王」についても展示・解説を充実させることで、古より続く「海」を舞台にした生物の進化や系譜がよりわかりやすく繋がるとともに、現代にも通じる生命にとっての「海」の重要性と自然環境に関心を持つきっかけとなる展示ストーリーを構成しました。

■古生代ゾーン



展示ケースごとに時代が分かれています



「断片的で小さな標本」が多い古生代ゾーンでは、標本の横にその海洋生物の全体像のイラストや模型を配置することで、子どもたちがイメージできる展示にしました。



- 子どもたちにも人気があり“初代海王”とされる「アノマロカリス」の巨大ロボットを入口に設置することで、本企画展に対する来場者の期待感を盛り上げました。
- 展示ケースごとに時代を分けることで、どの時代の海洋生物を見ているのかを分かりやすく表現しました。また、各時代の海について解説したことで、海と生き物の関係を学べる展示内容としました
- 断片的で小さな標本が多い古生代の海洋生物への理解を促すために、イラストや模型を活用することで子どもたちがイメージできるように展示しました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

■中生代ゾーン



- 大型標本の多い中生代ゾーンでは、トラスを用いて立体的に標本を展示することで、海洋生物の大きさや迫力を体感してもらいました。
- 各海洋生物への理解を促すために、解説パネルにイラストを用いてさまざまなトピックス（例えば、クビナガリュウとネッシーの関係など）を紹介しました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■ 新生代ゾーン



- 新生代ゾーンにもトラスを用いて立体的に標本を配置し、海洋生物の大きさと迫力を演出しました。
- 佐賀県で発見されているサメの歯化石と佐賀県近海で捕れた現生のサメの歯や生体を並べて展示することで、過去と現在の海をつなげて理解できるように演出しました。

【来館者の声】

- 海王という海の強いものの展示物を見ながら、海の生命の歴史をたどって知ることができた。
 - 気候変動を乗り越え環境の変化を乗り越えたものが子孫を残してきたという事に改めて感じ入った。
 - 昔の動物から現在まで色々な歴史があり、楽しく学べた。
 - 海よりは、そこに生息する生物について知った。
 - これらの生き物が暮らす（暮らした）海についてもっと知りたくなった。
- 企画展の入り口に置いてあることで、「海王展」への興味、関心がぐっと高まった。
 - 古代生物が大好きで、実際、化石などを見て、本当にいたと実感できたようです。
 - 身近で発見された化石など、おもしろかった。
- 骨格の構造上、ネッシーポーズをとると脱臼するというのが、ネッシーの写真のねつ造を裏付ける更なる証拠になるという点が科学的に興味深かったです。
 - 展示横の説明がおもしろかった。
 - 説明文がむずかしいので、低学年の子供にもわかりやすい文章で書いてもらえると助かります。スタッフによる解説ツアーなどがあるといいですね。
 - 海について知らない事が多かったが、過去・現在だけでなく、海の未来についても考えるきっかけとなった。

2. 関連事業の内容

■トークバトル 海王 vs 恐竜 - 古代の王者はどっち? -

【開催日時】平成27年7月20日（月・祝）13:30～15:00

【開催場所】佐賀県立宇宙科学館 ガイダンスホール

【参加者数】67人

【実施内容・目的】


- 古生物が専門の研究者による古生物の王者をテーマとしたトークバトル形式で、子どもたちにもわかりやすく古代の恐竜と海の生き物を紹介しました。



開催時の様子

—演者紹介—

	<p>当館スタッフ 中谷大輔</p> <p>クビナガリュウを中心に、 様々な海生動物の化石を研 究している。</p>
---	--

	<p>ゲスト 恐竜くん</p> <p>カナダで古生物学を学び、現 在では古生物学を中心とした 教育普及活動を行っている。</p>
--	--

- 知名度の高い恐竜と比較しながら、海の古生物を紹介することで、「海」への興味と関心を高める目的で実施しました。
- 海王については、海生爬虫類を専門とする科学館スタッフが解説し、恐竜についてはゲストの恐竜くんが紹介することで、双方の生き物の比較をわかりやすく演出しました。
- トークバトルの最後には、2人の演者が紹介した古生物のうち、最も古代の王者としてふさわしいものを、参加者の挙手数により決定しました。ティラノサウルスの人気には勝てませんでしたが、クビナガリュウで手を上げる参加者も多く、今回のイベントを通して、海洋生物への興味を喚起させることができました。
- 質疑応答の時間を長く設けたことで演者と参加者の距離が縮まり会場全体の一体感が生まれました。



開催時の様子



開催時の様子

【来館者の声】

- 恐竜と比べながら海王の事を紹介されていて良かった。
- 海王の特長がよく分かった。
- 海王と恐竜のそれぞれの専門家の話を聞くことができてお得でした。
- 講師の方々の話が分かりやすかった。
- 海王の事がよく分かった。
- 詳しい人の話は面白かった。わかりやすかった。
- 恐竜くんとスタッフの人の話が分かりやすかった。
- 入口横に置いてあるアノマロカリスが本当は小さいけど、その時代としては巨大な生き物だったことがよく分かった。パネルにも書いてあるかもしれないけど、話を聞くことでより納得できた。
- ティラノサウルスもすごいけど、海王も負けてないことがわかりました。
- かいおうもすごいことがわかった。
- 海にもすごい生物がたくさんいることがわかった
- クビナガリュウもすごいと思った。
- 古代の王者と言えばティラノサウルスだけど、海にはいろんな王様がいる気がする。

■ナイトミュージアム&ペイント教室

【開催日時】 ①平成27年8月 8日(土) 18:00 ~ 20:00
② 8月 9日(日) 18:00 ~ 20:00
③ 8月29日(土) 18:00 ~ 20:00

【開催場所】 佐賀県立宇宙科学館 ガイダンスホール

【参加者数】 計47人 ①13人 ②20名 ③14名

【実施内容・目的】

- 各「海王」の立体模型への色塗り教室を開催し、専門家による「海洋生物」の色や形にまつわる生き残り戦略の解説を聞きながら、各自が模型に色塗り体験することで「海洋」と「海洋生物」に関して興味を増す機会としました。
- 博物館における夜間ならではの照明効果の中、専門家によるギャラリートークを実施して、普段は経験できない雰囲気での特別企画展示を見学することで記憶に残る見学会としました。



生物の「色」についての講義の様子



模型の色塗りの様子



彩色したヤマトクジラ



「ナイトミュージアム」
古生代ゾーンでの解説



「ナイトミュージアム」
中生代ゾーンでの解説



「ナイトミュージアム」
新生代ゾーンでの解説

- ナイトミュージアムでは、本企画展の内容を深め、より海王に親しみを持ってもらうことを目的として実施しました。
- ペイント教室では、立体模型に色を塗ることで、色彩感覚が養われるとともに、古代生物の色について考えるきっかけになるように企画しました。また、自宅に作品を持ち帰り、飾ってもらうことで、常に「海」を意識させる効果を期待しました。
- イベントの前半はペイント教室を行いました。10分程度の「色」についての講義の後に、40分かけて、じっくりと色塗りを体験していただきました。
- 白い模型は瞬く間に、十人十色の多様性豊かな生物へと変貌していきました。
- 参加者には、このペイント教室の中で、海の古生物の「色」の可能性を探求していただきました。
- イベントの後半では、参加者のみの貸し切りで、じっくりと展示物を観覧していただきました。普段とは違うライティングで、特別な空間を演出しました。当館職員と参加者の対話形式で展示物を見て回ることで、海の生物や海の歴史に対する理解を深める機会となりました。

【来館者の声】

- 実際に模型に触りながら、形をたしかめながらペイントできたのがよかった。
- ヤマトクジラの模型を楽しく色ぬり出来た。
- 自分で作ったクジラがきれいだった。きに入った。
- 「ヤマトクジラ」や化石しかない生き物から色を考えて、実際に着色したこと。海の生物の進化、地球について興味を持ちました。
- 展実物を分かりやすく説明してくれたのでおもしろかった。
- もっとたくさんの海の動物を知りたくなった。
- 夜の科学館がよかった。中谷さんのせつめいがわかりやすかった。
- 時間的にも特別館があって、説明を聞けたりと良かったです。
- ていねいに説明していただき、とても勉強になりました。
- 化石についての説明員さんの説明が大変わかりやすかった。1つ1つじっくりと説明していただくスタイルはとても良かった。

■「海王」の化石のクリーニング体験

【開催日時】会期中毎日 14:00～15:00

【開催場所】佐賀県立宇宙科学館 特別企画展示場内クリーニングルーム

【参加者数】計1,232人（1日最大20名）

【実施内容・目的】

- 特別企画展での主役である「海王」。その「海王」たちが存在していた証である「化石」が古生物の研究に欠かせないモノであることを認識するとともに、特別に「海王」の貴重な実物化石に触れ、専門家の指導の下、研究者が実際に使用する道具を使うなど、化石クリーニング作業を通して“本物”の研究活動の一端を体験することで「海王」についてより関心を持つ機会としました。



展示場からクリーニングの実演の様子を見学できます

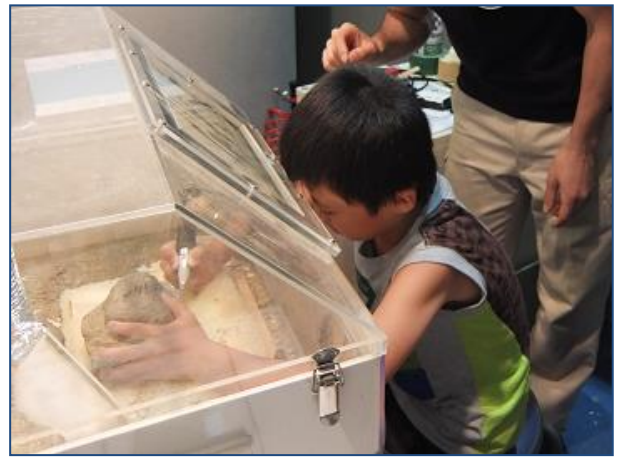


「クリーニング体験」の整理券配布



専門家と同じ道具を使って体験中

- 海王の化石クリーニングを通して、古代の海王が地球上に実在したということを感じていただくために実施しました。



本物のクビナガリュウの化石を使用

- 専門家による指導の下、研究者と同じ道具を使って作業することで、“本物”の研究活動を体験してもらい、「海王」についてより関心を高めてもらうことも期待しました。
- クリーニング体験は開始 15 分前に整理券を配布し、1 日 20 名の限定で実施しました。
- 夏休み期間は、開始時間 30 分前には参加希望者の行列ができ、配布時には瞬く間に整理券が無くなりました。
- クリーニング参加者は制限時間 1 分で、本物のクビナガリュウの化石をクリーニングしていただきました。
- 体験終了後は、隣に設置した顕微鏡を使って骨の内部構造を観察してもらい、海洋脊椎動物の特徴である多孔質な骨についても解説しました。
- 「体験」実施時間以外は、当館職員だけでなく、地学を専門とする大学教員やボランティア職員にも協力していただき、化石クリーニングを実演していただきました。
- クリーニングルームの内側と外側では会話が難しかったため、内部で作業している時には、外にも解説員を配置し、何をしているのかや化石の研究方法についても解説しました。

【来館者の声】

- 化石が本物と聞くと、より興味がわきました。
- 専門家の話がわかりやすかったです。
- スタッフの方の話が分かりやすく、息子だけでなく、私たち大人も興味を持てる内容でした。
- （親子で）一緒に話を聞いて良かったです。
- 本物の化石に触れることができ、よい思い出になった。
- すごくめずらしい化石をさわることができてうれしかった。
- 世界的に貴重な研究に参加させてもらい、光栄でした。
- 子供の夢が恐竜博士なので、なんとしても参加させてたかったので、間に合って良かったです。本物の化石と研究者用の道具を使うことができたので、子供の夢も一歩前に進んだ気がしました。
- 整理券が 1 枚しか残っていなかったのに、息子 2 人と娘 1 人を参加させていただき、ありがとうございました。その分、時間も延長してしまったにも関わらず、スタッフの方は嫌な顔一つせず丁寧に対応していただき、本当にうれしかったです。有難うございました。

- ①スタンプシート
- ②海王図鑑を作ろう
- ③クイズラリー

【開催日時】会期中毎日

【開催場所】賀県立宇宙科学館 特別企画展示場内

【参加者数】計51,752人（シート配布数）

①34,722人

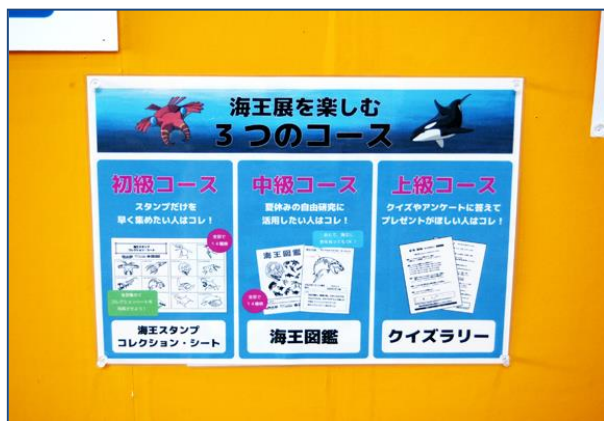
②14,261人

③ 2,769人

計51,752人（シート配布数）

【実施内容・目的】

- 企画展示場内で、能動的に「海」について学ぶ機会として実施しました。
- 特別企画展示場内に点在する「海王」スタンプ14個を集めると、同時に主な歴代「海王」がすべて見学でき、一冊の「海王図鑑」が完成します。スタンプのみを集めたい人のために、スタンプシートも用意しました。
- 「海王図鑑」では、スタンプ（海王の姿）と自分で各「海王」の解説を書いてもらいます。これにより見学するだけでなく、各「海王」の特徴とともに「海王」が生きた時代の海的环境なども学びながらオリジナル図鑑が完成します。



コース案内のパネル



参加者の様子



展示資料の前に設置されたスタンプ



スタンプシート完成

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



「海王図鑑」



海王図鑑作り



家族で参加



楽しみながら学びました

当初は海王図鑑づくりのみを企画していましたが、来館者からの要望もあり、難易度を3段階にわけて実施しました。

- ・初級編は、スタンプのみを集めていくシートを用意し、未就学児でも楽しめるように工夫しました。
- ・中級編としては、スタンプ集めと解説を書き写していくことで、オリジナルの海王図鑑作りをしていただきました。
- ・上級者には細かな解説をしっかりと読まないで理解できない問題を5題出題し、全問正解者には後日、抽選で景品を送付するクイズラリーを用意しました。
- ・このように3段階に難易度を分けたことで、様々な世代の来場者に何度も「海」について学んでもらえる場となりました。

【来館者の声】

- 海の生き物を学びながらスタンプをおして楽しめた。
- スタンプを押すだけでなく、手を動かしてメモを取る点良かった。
- 子供達はスタンプを押していくことで、海の生物について知ることができた。
- スタンプが楽しいようで子どもが何度も何度も見てまわる中で学べたと思います。
- スタンプラリーを行うことで、子供と一緒に観察することができるので、定期的に関催してほしい。子供は海の生物に興味があります。
- 今まで知らなかった生物のことをあらためて知ることができた。
- クイズラリーと合わせることで、子供達が文面を読むきっかけになり、たいへん良かった。
- クイズラリーやスタンプラリーがあって、子供も分かりやすい。
- 答えを探すことで自然と知識が増えました。

■ワークショップ ①海王のペーパーハットを作ろう

②パレオアクアリウムを作ろう

【開催日時】 会期中毎日

【開催場所】 佐賀県立宇宙科学館 科学実験室（特別企画展示場内）

【参加者数】 計7,530人 ①2,667人 ②4,863人

【実施内容・目的】

- 自分の好きな「海王」に色を塗り、自分だけのペーパーハットやパレオアクアリウムを工作することで、「海王」の形と名前を学び海洋生物への興味と関心を持つ機会としました。



工作ワークショップの様子



パレオアクアリウム作成の様子



ペーパーハット作成の様子

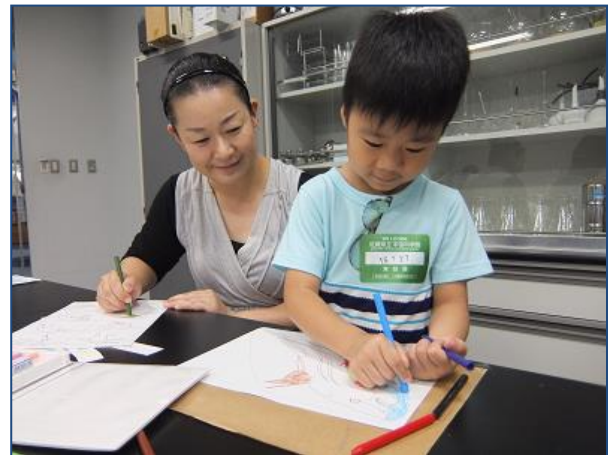
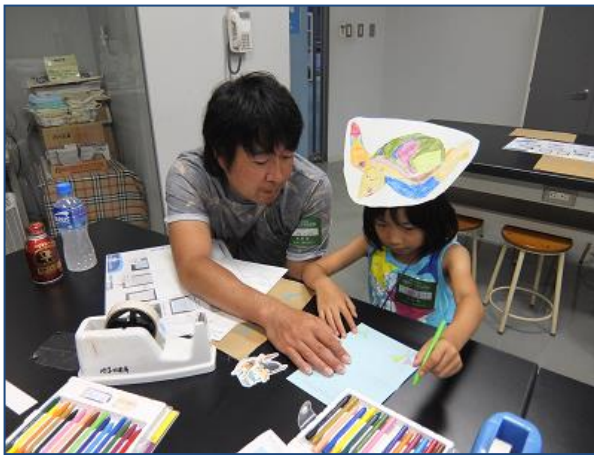


ペーパーハット作成の様子

- ペーパーハットやパレオアクアリウムの工作を通して、「海王」の形と名前を学び、海洋生物に親しみをもってもらうことを目的として実施しました。
- 自作した完成品を持ち帰ることで、自宅に帰ってからも本企画展を思い出し、持続的な海の学びにつながるように工夫しました。
- 実施場所は、企画展の最後の部屋から移動できる科学実験室で実施しました。参加者には受付で材料を渡し、道具の置いてある席に職員が誘導しました。
- 好きな海王のキャラクターを身に付けてもらうことで、海洋生物への愛着がわくように工夫しました。
- 未就学児でも楽しめるように色塗りができるようにしました。



大人気のパレオアクアリウム



家族で楽しみながら参加

【来館者の声】

- 子供が楽しそうに色ぬりをしていて良かった。
- 色をぬって「こういう感じ」と考えながらかけた
- 親子で協力して作れた。
- 子どもと一緒に楽しめました。
- 親子で楽しめました。
- 子供達が楽しく、スタンプラリーやバイオアクアリウムをやっていた。
- 子供達が楽しそうに作っていた。
- （パレオアクアリウムは）子供がとても喜びました。
- 今日、参加したポップアップカード作りなどのワークショップ（を今後も開催してほしい）

【事業全体のまとめ】

- 夏休み期間中の企画展らしく、特に子どもたちに人気の「アノマロカリス」のロボットや大型骨格標本を数多く展示したことで、来場者に強烈な印象を与え、海洋生物の進化や多様性、生態系、環境変化の影響など、多角的に「海」について学べる企画展となりました。
- 海王図鑑作りやワークショップなど、来場者が能動的に海について学べる企画を数多く実施できたことで、海への興味と関心を高めることができました。



「企画展」来場者5万人目（左）と10万人目（右）に記念品の贈呈

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 北九州市立自然史・歴史博物館	展示物借用
2. 西海国立公園九十九島水族館「海きらら」	展示物借用
3. 国立科学博物館	展示物借用
4. マリンワールド海の中道	展示物借用
5. 兵庫県立人と自然の博物館	展示物借用
6. 三重県総合博物館	展示物借用
7. 宮崎県総合博物館	展示物借用

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. RKK 熊本放送（テレビ）	「ウェルカム」6月26日
2. NHK 佐賀（テレビ）	「はっけんテレビ（九州）」7月4日、5日
3. 朝日新聞（新聞）	「カルチャーウェスト」7月9日
4. STS サガテレビ（テレビ）	「かちかちPress」7月10日
5. FBS 福岡放送（テレビ）	「めんたいワイド」7月14日
6. LOVE FM（ラジオ）	「トップオブザモーニング」7月15日
7. TOS テレビ大分（テレビ）	「ゆ〜わくワイド」7月17日
8. ケーブルワン（テレビ）	「ケーブルワンニュース」7月17～19日

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

9. 佐賀新聞（新聞）	「さが色模様サメの歯化石」7月19日
10. KBC 九州朝日放送（テレビ）	「アサデスKBC」7月24日
11. KAB 熊本朝日放送（テレビ）	「駅前TV サタブラ」8月8日
12. 読売新聞（新聞）	「新装開館後5万人突破」8月12日
13. NBC ラジオ長崎（ラジオ）	「桜町ステーション」8月16日
14. RKB 福岡毎日放送（テレビ）	「今日感テレビ」8月28日
15. 西日本新聞（新聞）	「来館者10万人に」9月1日
16. 九州じゃらん2015年10月号（情報誌）	「佐賀・長崎エリアお出かけ情報」9月1日

以上